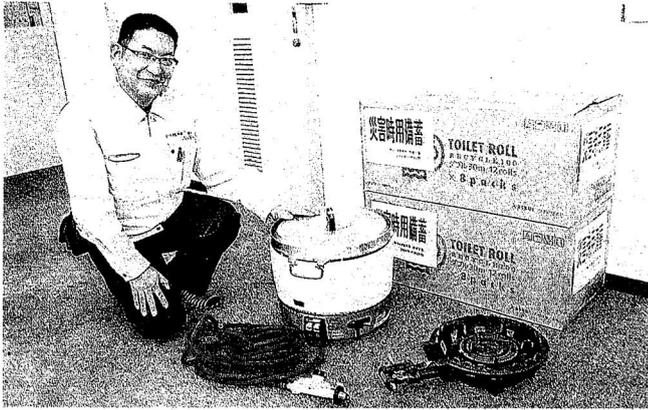


ツルタ製作所御嵩工場、食料や電気備え 防災対策、1ヵ月生活可能

投資数万円、50人分用意

自動車部品メーカーのツルタ製作所(愛知県刈谷市、鶴田昌宏社長)は、防災対策として、2015年末までに御嵩工場(可児郡御嵩町御嵩)の従業員とその家族ら50人が1ヵ月間同工場で生活できる体制を整える。工場設備を活用して数万円の投資で可能にする見込みで、資金力の弱い中小企業が取り組む安価で抑える防災対策事例として注目される。

大地震などが起きた場合、同工場従業員約40人のうち20人が帰宅困難者となる見込み。このため昨年夏から同工場では生活できる体制の構築に着手した。昨年は30〜40人分炊



購入した炊飯器やガスの圧力の調整用器具など。既存設備を使って安価で防災対策を進める=可児郡御嵩町御嵩、ツルタ製作所御嵩工場

ける炊飯器やガスコンロを購入。工場でリフトの稼働に使うLPGガスを転用できるようにするための雨水をろ過した飲み水にするポンプも購入した。また、紙の皿など日用品も購入する。太陽光パネルも設置して停電にも備える予定で、同社は太陽光発電システム販売も手がけていることから、自社製品を設置することで投資を抑える。

岐阜新聞

2015.02.17